

《各学年の特徴》

- 1年 音読や動作化を楽しみながら学習する児童が多い。正しい表記で文章を書く力に個人差がある。
- 2年 基本的な読み書きを正しく行うことができる児童が多い。自分の考えを表現することが難しい児童もいる。
- 3年 基本的な読み書きを正しく行うことができるが、日常生活で活用する意識に個人差がある。
- 4年 基本的な読み書きを正しく行うことができるが、段落相互の関係を読み取り、自分の考えを表現することに課題がある児童もいる。
- 5年 自分の考えをもっているが、表現することに課題がある。また、主語・述語・修飾語等の文法を正しく理解し、文章に書き表すことができない児童もいる。
- 6年 目的に応じて文章を書く力、話を正確に聞き取る力、筋道を立てて話す力に個人差がある。

《学力・学習状況調査から見られる指導の重点》

- ・主語・述語・修飾語等の文法知識を正しく理解する。
- ・文章に応じて正しく漢字を書けるようにする。

育てたい力（課題）

- 1年 語彙を正しく理解して、読んだり書いたりする力。
- 2年 自分の考えをもち、文章や言葉で正しく表現する力。
- 3年 習得した知識や技能を活用し、自分の考えを伝える力。
- 4年 読み取った内容を理解し、自分の考えを明確にもち、友達と対話をしながら、考えを深める力。
- 5年 文法知識を正しく理解し、目的にあった文章全体の構成や展開を考える力。
- 6年 文章の主題及び要旨をとらえたり、自分の考えを分かりやすく表現したりする力。

☆授業改善の具体策☆

- ・読書活動の充実 ・家庭学習（音読）の連携 ・学習用語の掲示
- ・朝読書 ・ICT機器の活用 ・モジュール指導の活用 ・話し方や聞き方の型
- ・主体的な学習をねらった学習課題の設定 ・ホワイトボードの活用

- 1年 日常的な音読や短作文を書く活動を通して、ひらがなやカタカナ、漢字を正確に読み書きできるようにする。
- 2年 習った漢字や文章の書き方を活用する場面を設定し、定着を図る。
- 3年 習った漢字を活用する場面を設定し、定着を図る。基本的な読み・書きの能力を身に付ける。
- 4年 習った漢字や内容を活用する場面を設定し、定着を図る。
- 5年 モジュール指導を活用し、習った漢字の定着化を図る。また、モデル文を基に文法知識や文章構成の理解を図る。
- 6年 単元に関連した作品を読み取る活動を取り入れ、物語や説明文の文章中の表現を用いた文章を書けるようにする。

- 1年 身近な題材を基に、日常的に書く活動を多く取り入れる。
- 2年 自分の考えをもてるように、めあてや発問を精選する。
- 3年 自分の立場を選ばせるような課題を設定することで、自分の考えをもちやすくする。
- 4年 自分の考えを明確にした上で、それを基に友達と交流する場面を設定し、考えを深められるようにする。
- 5年 ICT機器を利用し、相互に読み合うことで、分かりやすい言葉や表現に気付き、目的に応じた文章を書けるようにする。
- 6年 目的や意図、相手を意識させることで、言葉や表現を選んで文章を書いたり話したりできるようにする。モデル文を基に、文章構成の効果を理解させ、自分の考えを分かりやすく表現できるようにする。

- 1年 日常的に言葉集めや言葉遊びを行い、言葉に関心をもたせる。
- 2年 身近な生活や体験と関連付けることで、主体的に学習に取り組むことができるようにする。
- 3年 学習のゴールを導入時に明確に提示することで、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにする。
- 4年 友達との対話を基に自分の考えを深め、問題意識をもって学習に取り組めるような言語活動を設定する。
- 5年 子供たちが主体的に取り組めるような、単元に応じた言語活動を設定する。
- 6年 読書をはじめ、幅広い言語活動に取り組み、国語への意欲を高める。

《知識及び技能》

《思考力・判断力・表現力等》

《学びに向かう力》